

の見積りがされているが Duke (1982) は 鉱層の厚さが 20cm 程度の薄いものは採算に合わないとしてある厚さ以下の鉱層を除き かつ深度の限界を 150m と仮定して 815 万トンという従来の推定値の 3% にも達しない埋蔵鉱量を推定した。

Duke (1982) の見積った資源量は 2,800 万トンで 彼

の埋蔵鉱量の 2 倍になっているが 他機関による資源量の見積りの 1/20~1/300 程度で やはり低い値となっている。その根拠は明らかでないが 前述の南アフリカの項で述べたことと同様に Duke (1982) は深度の限界 (1,200m) と鉱層の最低の厚さを考慮したためであろう。
(つづく)

~~~~~ 地学と切手 ~~~~~



ユーゴスラビアのスコピエとモロッコのアガジール地震復興切手  
P. Q.

**スコピエ** スコピエ市はユーゴスラビアのアドリア海に面した都市で その歴史は意外に古い。アドリア海の沿岸は昔から地震の多い所で 紀元 518 年には一度完全に地震によって破壊され放棄された。のちにユスティニアウス帝によって現在の地より東に新しい市が作られた。この地震は非常に誇張されて 市が住民と共に沈んだとか 木の先だけがみえたとか 幅 4m の割れ目が出来たとか伝えられている。それ以来現在まで 25 回ばかりの地震が記録されていて その最高震度は 6 であると言われる。1921 年 8 月 10 日の地震では スコピエ市の北に新しい断層が発生した。

・ 標題の地震は 1963 年 7 月 26 日 5 時 17 分の地震で 前震がなく突然マグニチュード 6.0 の地震が発生した。ビルの 10% が破壊され その 65% は修復不能であり 1,200 名の人命が失われた。火災がなかったのも幸であったが 学校と役所が開かれていない明け方に発生したのも幸だった。何故なら学校と役所はほとんど破壊されてしまったから。復興には早速国連の

手がさしのべられた。

切手は丁度 1 年後に発行され 復興の足場と国連旗が画かれている。

**アガジール** モロッコは北アフリカのアトラス山脈にあり造山帯としての年代も若い。最近のプレートテクトニクスで言うならば アフリカプレートの最北端にあり 地中海をはさんでユーラシア大陸と相対しており プレート相互間の確執の場となっている。このようなところでは地震はアルジェリアと共に数・規模ともに多い (本誌 257 号 アルジェリアの地震被害者救援切手の項参照)。

地震はマグニチュード 5.5 で 1960 年 2 月 29 日に起った。切手は 1963 年 6 月に復興を記念して発行され 20 fr は地震前のアガジール市 30 fr は同じデザインに X をつけて地震被害を表わし 50 fr は復興したアガジール市を示している。